

令和4年2月16日 議会改革特別委員会 議事録
9時58分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 網谷 芳孝

副委員長 西村 一啓

委員 藤川 和弘、原田 孝徳、小中真樹雄、小田上尚典、北地 範久、
日域 究

議長 賀屋 幸治

○欠席委員 なし

○網谷委員長 定足数に達しておりますので、ただいまより議会改革特別委員会を開会いたします。

それでは日程第1から入らせていただきます。

議会報告会についてでございます。

○小中委員 すみません、いいですか。

○網谷委員長 どうぞ。

○小中委員 本来なら先日の議員全員協議会のときに多分すべきだったと思うんですが、山本議員がお亡くなりになって、山本議員に哀悼の意を捧げる意味でも、今日全員そろってはいませんが、1分間黙禱をするというのはいかがでしょうか、議長。

○網谷委員長 この件については、議長。

○小中委員 僕はとりあえず、議長に。

○賀屋議長 この件につきましては、この後の各派代表会議の中でどういうふうに今取扱いをさせてもらおうかということについては説明をさせていただいて、全員がそろった状況の中で、なおかつ本会議場で黙禱をしていくということのほうが、どこの議会もそのような形を取っているみたいなので、そういうふうにさせていただこうということをお話をさせてもらおうということにしていますので、そのときにまた意見があればお願いします。

○網谷委員長 よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 それでは、ただいまより議会改革特別委員会を開会いたします。

まず日程第1 議会報告会についてでございますが、最初に議会改革特別委員会に正式なお話をさせていただいていないんですね。これ、嫌みを言うわけじゃないんですがね。そのことにつきまして、少し順序が違うかもしれませんが、議員定数問題についてを議会報告会に報告事項として提出するかということ、まだ特別委員会として諮っておりませんので、確認のために議会報告会に報告事項として議員定数問題についてを報告するということがよろしいでしょうか。委員の皆さん、何か意見があれば。

小田上委員。

○小田上委員 おはようございます。

班長会議、議員全員協議会にわたって、議会報告会で定数のことについてという話をされて、先ほど委員長が言われたとおりに、今までの、従前の方法だと、委員会の中からこれはどうかというのを出していくべきだったんだろうとは思いますが。ただ、議員全員協議会の中でもそういう流れが出てたと思いますし、取り上げる、取り上げないっていう気持ちではありません。

ただ定数問題についてだけだと、なかなか今、現段階決まっていることっていうのもお示しできることも少ないのかなと。ただ意見を聴くだけっていうことになりかねないなと思いますので、例えば前回、前委員長のときからにはなりますが、議員の成り手不足についてこういうことを今までやってきましたという流れで、もちろんその中には定数の話も触れることになろうと思いますので、そのほうがいいのかと。そういう大枠で議員定数についてっていう形で議会改革特別委員会が上げるんじゃないかと、成り手不足についてっていう形で議会改革特別委員会で報告会に持っていくっていうことであれば、ある程度市民の皆様にお伝えできることもあるんじゃないかなというふうに思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ということで、議員の成り手不足というのは、令和元年ですか、議長から諮問をされたことでございますので、その中にも付議事項として議員の成り手不足と、もう一つが議長の意見を諮るといいますか、諮問するという意味もありますので、これは大名目ではございますので、これから議論する中で、成り手不足という項目がどういう位置づけになるかというのを議論していかなければなりませんので、そんなところも含めて、まず議会報告会について、議会改革特別委員会として報告事項として取り上げていただくということで、その件に関してはよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 異議なしということで、そういうふうに議会報告に報告事項として提出させていただきます。よろしく申し上げます。

それから今、小田上委員の言われた議員定数の議員の成り手不足。これも大変大きな課題ではございますので、とはいえ全国的な問題ではございます。これも議論の中には皆さんお含みおきの上、しっかり議論として入れていただければと思います。

ということで、議会報告会に、議会改革特別委員会として参加をし、市民の意見交換の中に入れるということで、御確認よろしく申し上げます。

ということで、マニュアルをまだ特別委員会として、そんなに途中経過でございますし、結論めいた議論もまだ成り立っていませんので、大変難しいところではございますが、とはいえ資料が少なからず必要と思いますね。

そういう方向で前回の2月7日にございました、議員全員協議会の皆さんの意見には、宿題として何か考えていただいております。私は口頭ではございますが、申し上げたと思うんですが、この前、西村副委員長と協議しましたところ、なかなか今の時点で、議会改革特別委員会として成り手不足につき、議員定数についても、協議はもちろんしておりますが、結論に準ずるようなまだ結果も出ておりませんので、資料としては難しいんじゃないかということ副委員長とは話しましたが、最低限の資料としては

皆さんに昨日でしたか、サイドブックスのほうに載せていただいたと思うんですが、説明文章ですね。俗に言う読み原稿ですか、これはもう必ず要るんですが、それから資料としては昭和29年の大竹市発足当時から現在までの議員定数の流れ、経緯ですね。それぐらいは提示できるのではないかということ、副委員長とはお話ししたわけですが、そのほかに何か、いや、これはやる、これはどうかというような意見があれば発言していただければと思うんですが。

小中委員。

○小中委員 議会報告会といえども、要するに透明性を確保するということが大変重要だと思いますので、私がつくりました、先日議長が4万とか5万とかおっしゃいましたが、2万から4万までの全国の市の人口面積で、その前回選挙がどうなったかと。それで議員報酬等も全部網羅した表を作っておりますので、これは市民に公開しても、私は全く問題ないと思います。

それともう一つ、やった、やったって言いますが、市民に議会が何たるかをSNSでやったって言いますが、じゃあその、例えばアクセス数とか検証とかはちゃんとやってるのかと。検証もやってないのにやりっぱなしだったら、単なる自己満足にしか過ぎませんからね。何も、ほとんど誰も見てない、そんなもんつくったってしょうがないでしょう。明らかにこういうふうな、つくったけどアクセス数はこのぐらいだと。どんだけそれが役に立っているか、それをちゃんとやらないのに、さらに次がどうのこうの言ったって始まんわけですからね。やったことはちゃんと検証するという、そういう真摯な態度がなかったら、話にならんと私は思いますね。

それと、あえてつけ加えますが、その定数問題じゃないっていうか、議会の意見じゃなくて市民が、例えば無投票に対して、だから議員定数がどうのこうのちゅって、いわゆる話として、どのように考えているかを聞くのは全然問題がないと思いますし、それと議会改革特別委員会ではここまで今論議が進んでますが、皆さんはどのようにお考えですかというのを聞くのは全く問題ないわけで、単なる、要するに定数から逃げてばかりじゃ、私は話にならんと私は思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

別に定数から逃げとるわけじゃないんですがね。これは最初の令和元年からの皆さんの意見を聴取した中での15項目の中の一つを今回の委員会が選んで協議をしようということになっとなるんで、その辺のところはもちろん軽視はしておりませんので、よろしく願います。

原田委員。

○原田委員 今、小中委員のほうから話があったんですけど、それに続くような形でお話をさせていただくと、議員定数の問題というのを取り上げるということが決まって、委員長がおっしゃったようにやり始めているわけですから、議員定数の問題というのを議会改革特別委員会の中で取り上げているということ、今、ほとんどの市民の方が知らない。結論めいたものはないと委員長はおっしゃったんですけども、その結論めいた話がないというのは、どういう過程を経てその結論めいた話になったのか、その中身がどういう議

論をしてきたかっていうことを、やっぱり市民の方にお知らせしないと、何で結論めいた話になってないのかっていうことも分からないでは困るので、その辺り資料として、議会改革特別委員会でいついつ、どういう議論をしてきたという経緯を、説明、文章にして出すっていうのは必要ではないかというふうに思います。

以上です。

○網谷委員長 今までの、結論めいたということがないということは、まだ途中経過という意味でもございまして、今の経過の話題という、話の中の皆さんの発言の内容ですよ。それは挨拶文にも盛り込まれると思います。それから今まで委員会となってから3年目ですか、今までの流れの経緯をもちろん説明しなければいけないということは私自身も考えておりますので、それは文章の中に入ろうかと思えます。その予定でございまして、私はね。

それからそのほかに、先ほど申しましたような、今、小中委員が言われましたようなそういう資料もどうなのかなというの、ほかに今の小中委員の意見に対しまして、何かございましたら、どなたか。

小田上委員。

○小田上委員 この資料だったり議員報酬も載ってますけど、別に市民の方に、これ全て、委員が本当に合っているのかどうかのチェックが要るのか、小中委員に出典をしっかりと教えていただいて、ここからのデータですよっていうのが説明できれば、出すことは全く問題ないのかなと。

ただ、これをどういうふうにするか。ただ出して、今この資料を使つての話合い、協議っていうものが行われた記憶がほぼないので、小中委員から最初に説明いただいた後に、その辺り説明をどうしていこうかなって今考えていたところはあるんですが、あと小中委員に言われてそのとおりでだと思ったのが、やるだけやって検証してないと。そのとおりでだとは思いました。

ただ、検証すべきことはこの議会改革特別委員会なのかなとは思っているので、それはうちで、委員長がもちろん決めていただくことでもあるんですが、我々委員も検証する機会を持ったほうがいいんじゃないかという声は早めに上げるべきだったかなというふうには思います。

原田委員が言われたとおり、結論めいたものがないっていうところの言葉は置いておいて、こうだっていう結論は出てないというのがあります。ただ、なぜ結論が出てないのかっていうのに、最初の2年間こういうことをやってきましたと。この辺言われたとおり、検証作業を、資料を作る前にやらないといけないのかなと思いましたが、ただそういう資料は自由討議なりSNS、YouTube等でやってきました。その辺りは口頭で説明するだけだと分かりにくいものばかりなので、こういうものですよっていう資料があるといいのかなとは思いました。

以上です。

○網谷委員長 もちろん、今回はどういうふうなものを提示するかということとあったんですが、これからの流れを、先に言っておきます。

今日のは大体のざっくりとしたテーマですよ、報告会に提示する。その流れと、次回

は4日になるんですかね、特別委員会は。その中で役割分担をして、それから3月中にはもう一回委員会をやりまして、役割分担をしたその書類を、資料を照らし合わせて、もう一度委員会で協議しまして、議会報告会がこの前の議員全員協議会の話の中では、早くて4月の下旬ということなんですから、3月いっぱいには議会改革特別委員会としまして結論を出して、4月上旬にはもういつでも議員全員協議会なり各班にでも資料がお渡しできるような状態にしたいというふうに、私は考えております。

そういうことですので、今日はどういうテーマをしっかりと、これとこれを出すというような感じになれば、次回役割分担を決めて、3月の終わりには提出していただくということで、そういう流れで行こうと思っているんですが、最初の議会改革特別委員会のスケジュールとしましては、議会報告会が頭になかったのが、狂うかも分かりませんが、今回は議会報告会に、先ほど承認されましたので、定数ということを中心してやっていきたいと思っておりますので、そういう方向でおりますのですが、どうですか、よろしいでしょうかね。

小田上委員。

○小田上委員 資料を作って市民の方に、确实、間違いのない情報を提供して、しっかり意見もいただくと言われましたので、成り手不足についてこういうことをやってきました、議員定数の話にはもちろんなると思いますが、ほかの部分でもどう思いますかっていう意見も、先ほど言われた検証のために必要だと思うんですね。なので、その意見も欲しいなと思います。

ただ、資料づくりだけに1か月間追われると、当初やりたかった協議もできないというところもあると思うので、どうなんでしょう。協議は協議、資料作りは資料作りで委員会の数、増えることは全く、僕個人としては全く問題ないんですが、同時並行でもいいのかなと思ったりもします。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ただ、今回の議会改革特別委員会の議会報告会に提示するというところでございますが、今までと意味合いが変わってくるのではないかとということでございます。というのが、今までは常任委員会は予算委員会等、そういう中での提示になったと思いますが、ほとんどがもう決まったものを提示するという報告というスタイルになったと思いますが、今回は途中の報告ということになりますので、意味合いが違うのかなというふうに感じております。

そのようなことで、今小田上委員も言われましたが、小中委員の今提示されたことに対しては、今のところやっても差し支えないのではないかとという意見でよろしいですかね。これからは、具体的にはしていかなければなりませんので。

小中委員。

○小中委員 私の作成しました資料は、2日間で、まず日本国勢図会で2万から4万の都市を抜き出して、それでさらにその各地の議員定数条例、議員報酬条例っていうのは全部ネットにアップされていますので、それを一々チェックして作成しました。あと面積とか人口とかそういうものは、全部その各市の資料に載ってますので、それで2日間かけて作成

しました。面積っていうのは、平方キロメートルっていうのは、もう小数点以下は削除とか無視して、しております。

だから、別にまだしてないけれども実際こうだという、私がこの表を作ろうと思ったのは、すぐ議員報酬を増やしたら議員がどうのこうのというときには、他市と比較するとか、今までその何か議員定数を削減しているって、近隣っていうよりも、境港市や大田市やほかの市よりも、大竹市のほうが断然議員報酬が高いと。だから、私個人的に何を言うてるのかなと。その怒りとか、何を言うてるんかっちゃうその怒りが源泉にあるんですけどね。実際そんなこと言ったって市民に理解されるわけない、それで市民にもちゃんとその、実際ほかの市とどうなんかっていうのを知ってもらおうっていうのは、それはそれで必要やと思いますよね。

だから市民が例えば定数とかで、現状のままでええんちゃうんかって言ったら、それなら私、言いますよ。それなら次また無投票になったら、どないなりまんねんと。だからそういうその議論をすることは、私は決して無駄じゃないと思いますけどね。私は市民が絶対正しいとも思ってないし、私が絶対正しいとも思ってはないけれども、そのちゃんとした信念はないとあかんと思いますからね。

だから市民にどう思われようとか、そういう問題じゃないんですよ。どうすべきかって自分が信念持ったたら、無記名でアンケートなんかする必要ないわけで、ちゃんと自分が正しいと、絶対に議員減らしたらあかんというのが正しいと思うんやったら、そのアンケートなんかでもちゃんと記名をして、自分で責任を持った主張をすべきやと、私は思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

もう記名・無記名は済みましたので、無記名にしましたこと、私、委員長としておわび申し上げます。私は皆さんが少しでも本音で意見を出されたらという気持ちもございましたのでそういうふうにさせていただいたんですが、これからこういうことがありましたら、以後気をつけてまいりたいと思います。

原田委員。

○原田委員 すみません、空気読めなくて、ごめんなさい。失礼いたしました。

先ほどからの議論は、要は資料を3月の終わりまでに作るっていうお話だったと思うんですよ。今小田上委員が言われたように、資料を作るだけでは議論が進まないから、議論も平行して進めましょうということだと思うんですよ。私も賛成なんですけど、議会報告のための議会改革特別委員会じゃないので、あくまでも議論をしながらその中で資料を作っていくと。

資料っていうのも、さっきの中の話だと、検証したものと、それからこれまでの経緯。小中委員のその資料とか、大竹市制始まってずっと定数がどう動いたかっていう資料っていうのは、その確認作業ぐらいかなと思いますので、その検証すること、検証してそれを資料に起こすということと、それからこれまでの経緯ぐらいかなと思うんですが、それでもできればぎりぎりまで、その議会報告会の、多分4月もやると思うので、議会改革特別委

員会を、そしたらそれをある程度作っておいて、その4月の分もプラスして、最新の議論はこんな議論ですっていうのを出さなくちゃいけないと思うんですが、別に平行してやっても問題ないと思いますし、時間を長く取りたいのであれば午後からやって夕方までやってもいいと思うし、その辺はいろいろ考えることができると思うので、とにかく小田上委員が言われたように、やっぱり平行して資料作りと、それから議論とをやらなければならないと、私は思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

いろいろな意見が出とるんですが、今日はどういう資料を作成するかということが主なテーマでございますので、今いろいろ意見が出とりますが、具体的に言っていただければ、一つずつの資料の提案を皆さんと決めていただけたらと思いますので、今小中委員が言われましたのは、一番透明性の、今本当に時間を費やして作っていただきました資料ですよ、あれ。あれは本当に詳しく出とるんですが、その資料を活用するというところでよろしいですか。小中委員、よろしいですか。

○小中委員 あくまでも参考資料として。

○網谷委員長 もちろんです。

○小中委員 市民の方に見ていただくのは、全く問題ありません。

○網谷委員長 それでは人口数、その地域の面積もみな出とったと思いますので、一応それは使用させていただくということで、決めさせていただきます。

そのほかに、今までの検証ということなんですが、これはどういうふうにやられたらいいのかどうか。具体的に検証、検証と言われても、視聴率を見るのか何を見るのか、それを表にして出すのか、いろいろな方法があるかと思うんですが。

小田上委員。

○小田上委員 ごめんなさい、整理をさせていただきたいんですけど、こういう報告をしたからこういう資料が要るよねっていう考え方なのか、この資料があるからこういう報告ができるよねっていう考え方をするのか、どっちかなんだろうと思います。

先ほど小中委員の資料を使うことは、出すことは全く僕も反対ではないと言いました。ただ、これを使った議論だったりをしてないので、この資料を使ってどのような説明をしていくんだろうかなという想像がまだついてないと。単純にうちとほかの市町を比較してくださいっていうことだったらいいんですけど、例えばこの今後の議論の中で、ほかの市町と比較することが例えばナンセンスだとなった場合に、なぜこの資料があったんだとなるかもしれないじゃないですか。

なので、この資料の使い方って、こういうことをやりたいからこの資料があるよね、なのか、この資料を使ってこう説明するんだよっていうのが、報告したい内容があつてのほうがいいのかなと。じゃないと、あくまで参考ですと言われても、議会報告会で議会から配られた資料にはなるので、そこは気をつけたほうがいいというか、明確にしといたほうがいいのかなとは思いました。

検証の部分なんですが、検証のやり方いっぱいあると思います。Facebookもや

ってますし、Y o u T u b e もやっています。自由討議は、実際に自由討議として開催されたことがないので難しいですが、SNS等は、実際にF a c e b o o k、どれだけアクセス数があったのか、どれだけ投稿したのかわかることができます。Y o u T u b e の場合は実際にどれくらい再生されたのかわかるというところ、どこまで見てもらっているのかわかるというところまで細かく見ることができます。その数値を出して、こういうことになってますっていうのは報告として、資料は作れるかなと思います。

ただ、それは内々でできる検証部分も多くあると思うので、こういうことをやっていますよっていう市民の方にお伝えして、知らなかったっていうことであれば、どうだったら知れたんだろうかっていうところを話をしていくのが検証になるとか、内容を見てみて、もっとこうだったらいいのにとかっていうところの意見を直接いただくっていうのも検証につながるのかなと思うので、やり方はいっぱいあると思います。数字を出せと言われてれば、事務局の協力、議長の協力も必要になりますが、数字はすぐ出せると思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。それは可能ということでございますね。ありがとうございます。

ということで、今2つ決まったということですよ。それでよろしいですか、皆さん。

北地委員。

○北地委員 どういう資料を作るかということで今お話が進んでいるところなんですけれども、整理していくと、今回の報告会では、今までの状況を報告すると。それで多少なり市民から何らかの意見は出るだろうけど、それには対応していこうというようなところで行くのかなと思ってるんですけども、今回市内3か所で1回やるだけの話なので、そこで出た意見がこの委員会の中でどのように反映されるのか。逆に足かせになるのではないかなというようなことも心配しております。例えば1か所に100人来られました。それで3か所で300人来られました。大竹市の人口は2万6,000人ですから、3万として、1%の意見ですよ。それが大きな足かせになるんでは困るなというのが、今の思いでございます。

それと報告の資料作りなんですけれども、どういう報告をするのか、それを先に決めないと、どういう資料を作るのかというのは私としては言いつらいなところがありまして、その辺からまとめたほうがいいのかなというような思いもありますが、その辺りいかがでしょうか。

○網谷委員長 ありがとうございます。今北地委員が言われたように、大変難しいところなんですよね。今小中委員、また原田委員もそうなんですけど、私と副委員長と協議した内容を昨日サイドブックに載せると思うんですけど、まだ途中経過でございますので、これ。今までの流れのきっかけだったものを報告するんじゃないので、なかなか難しいところもございまして、その提示したものをどういうふうにもた議論の仕方をするのかとか、そういう問題も出てきますよね、今の協議の中の流れから行きますとね。

それに今、私は先ほど2つの予算の了解を得たということなんですけど、どうなんですかね。今北地委員が言われたように、議会報告会が今3か所で1回ということなんですけど、これが果たして今までの報告会を3回ずつで9か所でやったんですかね、おとし、

一昨年はね。その人数的なものと、どういうふうに今位置づけたらいいのか。その一昨年の9回の中で何人ぐらい、全体で何人ぐらいだったかね、局長。分かります。

今数字のことを言われてどうのこうのという話にはならないと思うんですが、その辺のところも議論の一つになろうかと思いますが、これから先にはね。主にはこの話は、正副班長の会議の中での議論になろうかと思いますが、委員の皆さんに私が決めていただきたいことは、先ほど言いましたような、これから委員のデータを活用するというので、それから今まで行ってきましたSNSの関係の検証ということで、これを今了解していただいているということなんです。

原田委員。

○原田委員 今回のその議会報告会のテーマは、議員定数の問題についてですよね。ですから、もちろん検証の資料も必要だと思いますし、議会改革特別委員会でやってきたことですから必要だと思いますけど、あくまでもその議員定数の問題についてというテーマだとすると、さっき結論めいたものが出てないですが、要は経緯を、これまでどのような経緯で議論してきたかっていうことを説明する、資料を作って説明するぐらいしかないのかなと思って、その中で資料として小中委員が作ってくださったこういう資料も、資料の中にありましたと。

大竹市がずっと議員定数を減らしてきたその経緯みたいなものも議論したのか、私は覚えてないんですが、仮にそれがあつたとするならば、その資料も添付するという形で、あくまでも議員定数の問題についてというテーマですので、私はこれまでの経緯をしっかりと説明すると。その説明する文書を作っておくということじゃないかなと思うんですが、すみません、私の考えが違ったら御指摘ください。お願いします。

○網谷委員長 北地委員。

○北地委員 今、原田委員のほうから、今回の議会報告会のテーマが議員定数というのは、これは決まってるんですかね。私は、議会改革特別委員会の報告をするというのは、さっき決めたと思うんですよ。この委員会の報告ということであれば、議会改革特別委員会の問われとるのは、議員の成り手不足のテーマです。定数はその中の枝なんです。だから、報告するのであればこの3年間の活動報告をするわけでしょう。最初の、令和元年から始まったほかの報告があるんでしょう。それでいいんですよね。そうすると今回の定数というのが、テーマになったんですか。そこを整理しとかないと。よろしくお願いします。

○網谷委員長 だんだん協議の話が。

小中委員。

○小中委員 要するに、委員長が、大体要するに9月議会までに、最終的には議員定数をどうするかという結論は、この議会改革特別委員会として出すというのを明言されているわけですから、こういうタイムスケジュールがあつて、現在はこうなっていますっていうのを市民に説明するのは当然の話であつて、それでその成り手不足、成り手不足ってだからSNSでどうやって成り手不足が解消されるねんちゅう話ですよ。

そんなね、多くの自治体は無投票とは関係ないところないだ言っていましたけど、多くの自治体は無投票になったら、すぐ次の議会で、議会改革特別委員会をつくらなくつくりたい

とか、私の調べた限りでは、それが否決されるかは可決されるかは別として、真摯に議員定数を議論しているんですよ。それが世間の常識なんですよ。

それを、成り手不足、そんなものは新聞が何とか書くって、それはその要因の一つにはなるかもしれないけど、ちゃんとやるべきことを本当にやってきたんかと。私は大変疑問で、順序が全く異なっているっていうか、要するに、こんなん言うたらその議員が全部、その反対っちゃうか、議員定数を減らしたくないからというんかどうかわかりませんが、それは私は間違っていると思いますし、その1回がどうのこうのと。

一応市民が聞いとるかどうかって、決めるのは我々なんですから、市民が賛成か反対か、市民が賛成のほうが多かったら、無投票になってもええからって、定数削減に反対するんかと。私はそんなことはありませんからね。市民が何と言おうと、だからさっきも言ったように、じゃああんたら、投票の権利を奪われてもええんかと。ただ何の、少なくとも2回連続っていうことは、1回の議員の評価が問われないっちゃうことですからね。最高裁の裁判官の国民審査だって、マル・バツをつけるんですよ。だから無投票っていうことは、マル・バツがつかないっちゃうことですからね。だから、それを。

○網谷委員長 小中委員、私が怒られたようなんですが、今。それはよく分かりますけどね。

○小中委員 いや、だから、1回であろうがやらないよりはましなんであって、だからそれでその何か引っ張られるっていうか、最終的には16人の議員が、自分が自信を持って、自信と信念を持って決める話なんだから、それで先日も申しましたように、ここの委員会で例えば可決、もう否決されたらおしまいやろうけど、可決されても、その本会議で否決っていう手はあるわけですよ。否決っていう手があるっていうのは語弊がありますけどね。

だから少なくとも、要するに、市民がどういうふうに考えているかっちゃうのを聞くことは必要だけど、最終的に決めるのは議員個人個人だということを。

〔「委員長、報告会どうするんか決めるところやろう。そんな個人の意見聴かんでええやろう。」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 分かるとるんですが、一応。

○小中委員 じゃあ、もういいです。

○網谷委員長 いいですか。そういうことで。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、もう全く見えないので、できれば休憩をしていただくかぐらいかなと思うんですが、整理したいのが、やるって決まったんですよ、議会改革特別委員会で。やるって決まって、小中委員とかが今発言されとったのは、議会改革特別委員会の協議の中身であれば僕は全然いいと思うんですけど、何を報告するかっちゃう話を決めようっていう段階であまり話されても、前に進まんなど。

簡単に言えば、定数のことだけ報告したい人たちがいる、今まで議会改革特別委員会がこの3年近くやってきたことを、全体的に報告したいっていう人がいる。その2つなんだろうと思うんですよ。それをどうするか決めればいいんじゃないかなと思うので、もう定数だけやるんだったら定数だけやればいいし、議会改革特別委員会全体として報告、今までやってきたことを含めて、だって議長から一番最初に報告されたのって、成り手不足で

すからね。付議事項は成り手不足とその他議長が認める事項ですから、別にいきなり議員定数について考えてくれて当時の議長に言われたわけじゃないと、僕は思ってます。

なので、議員定数だけやるんだったらやればいいけど、それをやるのかやらないのかをここで決めましょうよ。別に内容がどうこう、誰がどう思ってるとかじゃなくていいと思います。

○網谷委員長 原田委員。

○原田委員 小田上委員と同じ意見なんですけど、今回その、これまで議会報告会の中で、議会改革特別委員会として何か報告を今までしたことがあるのか、その辺は分からないんですけども、今回するっていうのは、例えば基地周辺対策特別委員会が、じゃあやるかって言ったら、しない。するんですか。するんであれば、基地周辺対策特別委員会もする、議会改革特別委員会もするっていうことで、じゃあ議会改革特別委員会そのものの議論がこの3年間どうだったかっていうことだと思うんですが、もしそうじゃなくて、議会改革特別委員会だけが何か資料を作って報告するというのであれば、この議員定数は問題なのかなと思うんですが、その辺がよく分からないので、小田上委員のおっしゃるとおり、整理をしていただいて、議論しやすいようにまとめていただけるとありがたいんですけど、お願いいたします。

○網谷委員長 ありがとうございます。

今副委員長が、休憩しましょうということなので、10分ほど休憩します。空気換気もありますので、よろしくをお願いします。

10時45分休憩

10時56分再開

○網谷委員長 それでは休憩前に引き続き、会議を続行いたします。

協議をまとめてみたいんですが、この委員会は昨年9月に発足されまして、その中で最初の委員会は、前期のほうは令和元年9月に発足され、付議事項としましては、議会改革特別委員会に関して議長が必要と認める事項、2番目が議員の成り手不足解消に関する事項、これが大きな2つのテーマでございます。その中で委員の皆さんに活動方針として募ったところ、15項目が提示されまして、その中に前期の場合が4つ、検証しながらではございますが、実行されて決定されております。

そして今回、昨年の9月に同じように皆さんから活動方針として項目を挙げていただいた中には、令和元年の最初の前期の項目の中以外になかったということで、その中の名代は成り手不足ということでございます。その中の1項目の中に、議員の在り方、議員定数についてという項目がございまして、それでこのたびの皆さんの委員の中から、全員が一致で議員定数の在り方、議員定数についてを選んでいただいたということで、9月からこうして今現在まで来ている状態でございます。

そうした中で、議員の成り手不足ということ、これは名代といいますか大きな課題ということで、その中での議員の成り手不足ということになりますと、大変大きなテーマということになるかと思えます。そうした中で一つに絞ろうかということで皆さんが選んでいただいたのが議員定数の在り方、議員定数についてということでございますので、その

ことについて今回も議会報告会に、先ほど皆さんから了解いただきました提示事項として、議員の在り方、議員定数についてということ、報告会の中でまた全面的に決まるのは今からになるんですかね。

〔「報告会の中で。これは班長会議で」と呼ぶ者あり〕

○**網谷委員長** ということ、議会改革特別委員会の中では、提出事項として了解していただいたということございます。どちらにしましても確かに成り手不足というのは大きな課題でございます。議員の成り手不足については付議事項ではございますが、その中の議員定数の在り方、議員定数についてを皆さんと一緒に選んだわけでございます。そうしたことで、これについて議論をしていただきたいということで、ただこの議論の中には成り手不足の議論も含まれると思います。ということで、原点に戻りまして、議員定数の在り方、議員定数についてをメインに考えていただき、それに即した資料の、今提示をしていただいておりますということでございます。

その中で了解いただいたのが、小中委員の議員定数の全国的な市町の数字、面積その他、報酬、全部載っておりますので、これを資料とさせていただくということと、それからSNS、YouTubeなどのアクセス回数等を調査して、これも一つの資料とするということ、この2点が今決まっておるということでございます。

それと、私と副委員長が協議の中で示しました、昭和29年大竹市発足当初から現在までの議員定数の経緯、大きく分けてこの3つが今了解されているわけでございますので、なるべくそこに関することは、全体面が入りますので、そういうことも含めて皆さんのこれからの協議の中で発していただければと思います。以上、今3点について了解をいただいておりますということで、理解していただけたか。ということで、よろしく願います。

まだほかに何か意見がございましたら。

日域委員。

○**日域委員** なかなか分かりにくいんですけれども、この前の選挙が無投票だったっちゃうことは、一定の問題意識を持つに至った理由ですよね、皆さんのね。それで成り手不足かどうか、いろんな言葉がありましたけど、成り手不足っていうのは何に対して不足しとるかと言うたら、選挙になるだけ候補者がいないということですよ。候補者を増やすか定数を減らすか、そしたら選挙になって、選挙って一般有権者から見ると選択権ですから、だから選挙があるほうがいいよねっていうのは、これは皆さん共通の認識ではあるんでしょう。

増やそうというのは難しいですけれども、私は増やそうということもやってほしいとは思いますが、じゃあ成り手不足の対応策とすれば、もう一方では定数を減らそうかなと。いいか悪いか、それはだから議論なんですけれども、それをきちんと、これを議論するって委員長のほうで言ってもらったら、もっと議論がしやすいのかなという気がしますが、それと議会報告会っていうのは、言葉が私、言葉のせいもあるんですけれども、報告会ですよ。だからあったことを報告するんよっていうんですけれども、参加している方の多くの認識は、わしらも言わせえや、質問させえとか意見を言わせえっていう空

気がすごく強いですよ。こちらが報告する時間を我慢して聞いとると、そういうイメージがあるんですけども、今回のことについては、今こうやってますよっていうのは報告対象になり得ますけれども、この議論の上で行けば、幾ら僅かの人間であっても、わざわざ会場に足を運んでくれた、ある意味では意識の高い人たちだとすれば、その人たちの言うとおりにするわけじゃないけれども、その意見を伺うということもやっぱり付随的に、それは意見は言うでしょうけれども、やっぱり今回のことと言えば、こちらはこうやって今こんなことをやっているけれども、有権者として皆さんどんなふうに思われますかっていうのは、きちんとプログラムに入れて、聞くということもやってほしいなと思います。

定数を減らしたらいいんじゃないかっていう意見は結構聞くんですけども、現状維持もいいんです、私、現状維持っていう意見がまかりならんなんて思ってませんけれども、なぜ現状維持なのかっていうことは、またそう思っている委員の方は、その正当性というか、やっぱり言ってほしい気はするんですよ。

じゃあ、でもその定数、現状維持でいいのであれば、じゃあ成り手不足はどうなるのっていうことになって、そしたら今度成り手を増やそう、わしは定数は触らんでええと思うけれども、その代わり成り手を増やすんじゃないかって、こういうアイデアがある、ああいうアイデアがあるっておっしゃっていただけたらいいなと思いますけれども、成り手不足って言いながら定数削減に反対であれば、じゃあ何もしないことになりますよね。いろんな意見をもっと整理整頓しながら、いろんな意見を出してほしいなという気はします。

私はどっちでもいいけれども、大竹市が無投票になった後、新聞記事によると、連鎖的に、連鎖してはないと思いますけれども、あちこちで、この限界で無投票が続いてますよね。そういう意味ではやっぱり根本的なところに、そういう状況に今なってしまってるんだと思いますけれども、そしたら好むと好まざるとにかかわらず、一定の削減は必要なのかなと私は思っていますけれども、それは今ここで言うべきかどうか知りませんが、以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

テーマが議会改革特別委員会そのものの、この今回のテーマが議員定数の在り方ということなんで、もう絞られとるんで、本当にこうして委員会を何回も開いても同じような意見が出るのは、これはしょうがないと言ったらしょうがないんですが、そうする中でそのようなことで、どこへ視察に行ってみるとか、コロナの中でそういうこともできませんし、国の法律そのものが、各地域の自治体で定数については決めていただくという方針になっておりますので、こういうコメントがいいのか悪いのかよく分かりませんが、他の市町の意見を聞いても、一昔前ならかなりの参考になろうかと思いますが、今は各自治体で決めてほしいという国の方針もございますので、その辺のところも何ですか、あまり気にする必要がないと言えば語弊が出るかも分かりませんが、大竹市は大竹市独自の考えで行っても差し支えないんじゃないかということでございます。逆に言えば、責任がかなりある、我々特別委員会でございます。という、今の私の見解といいますか、そのようなことで。ほかに何か。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、議会報告会に関わらせていただいたところの記憶しかないのですが、以前のところは聞いているところしか分からないんですけど、経験した限りで言えば、報告事項を報告して行って、直近の定例会だったり各委員会から出てきたものでこれにしようと思ったものを報告して、その中で意見交換のテーマっていうのが別にあったんじゃないかと思います。

この議会改革特別委員会からどの部分を任されているのか、それで全体の議会報告会としてどのようなプログラムっていうところが、班長会議に参加している中でもまだ明確に出てない状態なので、どっちに、報告に振って作る資料が必要なのか、意見をもらうための資料が必要なのかということも、明確になり切っていないのかなど。例えばですけど、議員定数について意見交換をしたいという、意見交換をするということになった場合は、SNS等のことはもう報告事項にしかかなり得ないのかなど。ただ意見をもらうときに、こういうこともしましたという材料にはしていただきたいなと思います。

なので、その意見交換の中で扱うのか報告で扱うのか、全体の流れの役割分担が、まだ報告会の中でもたたき台がしっかりないのかなど。なのでここで何を議論して、例えば、じゃあこの議会改革特別委員会の中で意見を聞くんだったらどんな意見を聞きたいか、何を市民の方に聞きたいか、何をお伝えしたいかっていうところを話し合って、それで追加になってくる資料、必要ない資料が出てくるかなと思うので、そこを明確にしたほうがいいのかなとは思いました。

○網谷委員長 ありがとうございます。

議長。

○賀屋議長 活発な意見を出していただきまして、ありがとうございます。

この議会改革特別委員会で今作業している中身については、委員長のほうからも話、冒頭ありましたように、いわゆる議員の成り手不足、この解決のためにどういうふうに進んで取り組んできたかについて整理をし、令和4年9月までに一定の議員定数の在り方についてを決定していきたいということで、16人の議員のアンケートも取らせていただいたということでございますので、最終的にこの委員会で議員定数をどうするかというのは、またお決めをいただければいいと思うんですが、その参考にしてもうするため、この委員会だけ、議員だけで決めたというふうに言われたんでは、やはり市民を置き去りにしとるんじゃないかというふうな批判が出たんでは困るので、市民の意見もお聴きしましたよと、その場はどこですか、それは議会報告会の中で議員定数の在り方についての意見交換会というのをテーマに掲げて、その中で皆さんの、市民の意見をお聴きしましたと。

その聴く前提で、一方的な情報だけで言われても、誤解があってもいけないので、現状の議会改革特別委員会で取り組んできた経緯、経過、それとそこの課題であるとか、あるいはその議員定数の問題についての同規模都市の状況であるとか、近隣都市の状況であるとか、そういったものを参考資料として市民に提供して考えてもらおうと。そういう中に、削減したときの長所と短所も、今までずっと一般的に言われている事柄がありますので、そういうものも列記をして、なるほど、削減したらこういうことになるのかとか、削減せんかったらこうなるんかと、そういう今まで市民の考えが及んでない部分の意見というの

も、こういう考えがありますよという参考資料にしてもらえりような資料作成をして提示をすると。

そのことによってまた市民の意見も変わってくるかも分からんし、そういう中でいろんな意見が出る中で、それを意見交換で伺って、最終的にそれを逆に参考にして、この委員会の中でもう一回結論を出してもらおうと。そのための作業の一環というふうに考えてもらえばいいんじゃないかなということ、冒頭に皆さんのお話がありましたように、今までやってきた議会改革特別委員会の活動内容の検証も含めて、こういうことをやってきましたと。で、また今こういう状況で、こういう検討をしております、その中にはこういう意見もありますと、そういうことも含めて市民に、これは報告でまずはさせてもらって、それの中に添付資料として、先ほど言いましたような必要な資料を見てもらって、それで、それを見てもらいながら意見を伺うと、そういう形で進めることによって、一応市民の意見は聴いたということになるかと思うんですよね。そういう目的での資料作りをお願いできたらいいんじゃないかなというふうに思っておりますので。私としてはそういうことでよろしくお願ひしたいと思ひます。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小中委員。

○小中委員 先ほど来、議員定数、だから意見交換会なんだから、そのまま議員定数削減の声もあるけれども、だから成り手不足というのもありますと。で、来られた皆さんは、例えば議会ではSNSか何かで、何かユーチューバーか何か知りまへんけど、そんなんでもやっていますけど、皆さんは例えば成り手不足、皆さんやったら成り手不足を解消するためにはどんなことが必要やと思われまスカとか、そういうことを聞いてもいいわけであって、定数だけがどうのこうのって、そういう話ではないと思うんですね。市民の意見はあくまでも参考意見で、最終的に決めるのは、議員が自らの良識に従って決めるべきものなので、あくまでも市民は市民で、市民の意見を参考にした上で我々が決めるというので、だから別に決定事項っていうのは予算とか何とかで、それはもう決定しているから、だからそれを言えばいいだけで、この意見交換会っていうのは、定数削減に別に限る必要もないし、成り手不足っていう、一方ではそういう意見もありますけど、皆さんはどのようにお考えですか、何かいいお考えがあったら教えてくださいって、それでも別に構わんと思ひますよ。

だからそういう、もうこうなったら、こうやったらこうやらなあかんとか、そういうもんじゃないし、その議会報告会については、例えば決まりましたっていうんやったら、例えば定数削減が決まりました、定数削減が否決されましたっちゅうのを報告するんであれば、そのための資料、それに特化した資料が必要かも分かりまスカけど、何も知らない市民の方に、こないなあってまっせ、こないなあってるんすよっちゅう資料で十分であって、それはどんな意見かを聞けばええだけの話であって、これをかくかくしかじかって細かいところまで決める必要は、私はないような気がします。

○網谷委員長 ありがとうございます。

要するに、今までの議会報告会の中では決まったものを提示しまして、その中で自然と

市民のほうから意見が出るのが、今までの成り行きでございます。多分今回もそうした定数削減について、在り方について、こういう、もう新聞で大きく報道されてますし、参画される市民の方もそれなりの知識を持つというか、発言をある程度準備してくるのではないかと、これはあくまでも予想ですがね。それに、そういう市民の方がどういうことを発言されるか、まだその場にならねば分かりませんので、小中委員の言われたように、やり取りするしかないのかな。それを我々委員が持ち帰って参考にして、市民の方からこういう意見がございました、こういう意見もありましたみたいなことで、また協議の中の参考にするしかないのかなというような感じでは、私はおります。

とにかく結果を報告するわけではありませんので、今回はね。途中経過のことですので、こちらからの提示の仕方も難しいかも分かりませんが、それをまた参考にする必要もございますので、その辺のところもお含みおきの上、よろしく願いいたします。

原田委員。

○原田委員 すみません、私は班長会議で議論することと議会改革特別委員会で議論することがごちゃごちゃになって、私の中でごちゃごちゃになっているのか、皆さんも同じような思いなのか分からないんですが、例えばその議会改革特別委員会として報告事項を、じゃあそのどれぐらい時間をいただけるのかなとか、それが分からないと、例えば先ほどの検証であるとか定数の問題とか、全部言えるだけの時間をもらえるのか。例えば3分とかだったら本当に定数で、今までの経緯を話すぐらいしかできないだろうし、その辺がはっきり分かってないので、この辺をその班長会議とこの議会改革特別委員会の中で、まだよく決まってない部分があるから、なかなか今議論をしても難しいのかなというのがあると思うんですけど、議員定数についてというテーマでやるんですよね。そうすると、それで報告事項、班長会議の中で時間を費やしてしまうぐらいのボリュームがあるのかないのかってところも、その辺がはっきり決まらないと、どういう形で報告をして、意見交換にするにしても、それにテーマを絞るかどうかということも、その辺は班長会議等の中での議論があって、それはどっちが先でどっちが後か分からないんですが、その辺がまず一つ分からないのと、もう一つ、議長が言われたように、減らしたときのメリット・デメリット、減らさないときのメリット・デメリットあると思うんですけど、それをやっぱり、せっかくここの議会報告会でテーマでやるということを決めているわけですから、日域委員からも話があったみたいに、じゃあ減らすという人の意見は結構出てると思うんですけど、減らさなくていい、現状維持でいいという方の、じゃあ成り手不足をどういうふうに考えているのかとか、そういうところもこの中で意見を出してもらって、委員の中で、現状維持ではこういう意見、成り手不足に対してはこういう対策がありますとか、減らす場合だったら減らすから、その辺の対策、それが減らす対策ですと、そういう、とにかくまだ議会報告会まで時間がありますし、どんどん議論も進めていかなくてはいけないと思いますから、まず具体的に減らす・減らさないで、その減らす場合、減らさない場合のメリット・デメリットってところを、今議長が言われたのであれば、その辺も平行して議論して、それが間に合うか間に合わないか分かりませんが、議論をしていく必要があるんじゃないかなというふうに、私は感じました。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

今、報告会の中でどれぐらいの時間がこれに充てられるかということですが、議会報告会は今までの流れから行きますと1時間半ですかね、全体でね。それですから、まだこれから本格的に決まろうかと思いますが、大体その中で、この提出項目が何項目になるかも分かりませんのでね。その辺の配慮も要るかと思いますが、その辺のところは資料が幾らあっても、これを一々だだと説明してもそんなに時間はかからんと思います。

ただ、時間がかかるのは意見交換を行うやり取りが一番時間がかかろうかと、今までの流れから思いますので、その辺のところは今度班長の役割の、班長の采配の仕方が大きくなるのかなということもあろうかと思っています。

それから今、議員定数の現状維持、また削減といったメリット・デメリットという意見が、議長からも、また原田委員からも出ましたが、前回、議員全員協議会の中で私も、口頭ではありましたがお願いしとったところがあるかと思っていますので、皆さん準備ができれば発言していただければと思います。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、メリット・デメリットについての準備は正直してないので、その件についてというか、関連して。

先ほど小中委員が言われた意見交換のやり方は、もうおっしゃるとおり、ごもつとも、僕も大賛成。なので、全体を含めて意見交換ができるっていうのはありなんだろうと思います。定数だけっていうとどうしてもちっちゃくなって、ほかもっていう、いろんな意見をいただけるほうがいいのかなと。

その中で、議長が言われたメリット・デメリットを挙げるとした場合に、一般的によく言われているものがあるとは思いますが。ただそれをどっかから持ってきて、はい、これですってやっても、それが大竹市議会の現状と合っているのかっていうところもあると思います。なのでそれを、じゃあこれって増やしたときの現状のメリット、減らしたメリットみたいなものとしての精査の作業っていうのは、今議会が、大竹市議会って常任委員会が2つあって、特別委員会が3つあってとか、何かそういう一個一個、委員長が兼任しているとか、そういういろんなところを考えていかないと、いわゆる棚卸し作業なのかなと思うんですけど、何かメリット・デメリット、一般的に言われているものだけぽんと上げると、出したものの、大竹市議会とはマッチしませんみたいなものがあるんじゃないかなと思うので、それよりももっと純粋な市民の方の意見をいただいて、各会場の人が口頭で答えられることあるかもしれないですけど、その結果、純粋に考えている方はこういうふうに考えているんだっていう意見をいただくっていうのもいいのかなとは思いました。

○網谷委員長 今の意見を整理しますと、市民の方がメリット・デメリットを提示されることに対しての、こちらから答えるという意味ですか。

小田上委員。

○小田上委員 なので、こちらでメリット・デメリット、よくインターネットとか調べればすぐ出てくるようなものと大竹市議会の現状がマッチしているかどうかっていうところが

正直分からないので、その作業も結構必要になると思います、確認作業、整理作業。なので、それよりも純粋な、今ある資料、3つって委員長が言われた資料を使って、ある程度純粋なところを聞いてくる、で、今までやっている話の内容も伝えるっていう作業でいいんじゃないのかなと思います。

なので、別に市民の方にメリットをどう思うって聞いてもいいとは思いますが、こっち側でメリット・デメリットの資料を作るのが、現状だと難しいかなっていう気がしているだけです。

以上です。

○網谷委員長 分かりました。ありがとうございます。

藤川委員。

○藤川委員 すみません、私も市民の方に意見を聴く、それは物すごく大賛成です。今私が聞いている範囲のと、来られて意見を言う人の意見はまた違うと思いますし、いろんな人の御意見を聴きたい思いで意見交換会になるであろうと思います議会報告会、意見交換会のほうに多分時間を費やすだろうと思いますけれども、賛成です。

あと資料のほうですけど、今回レジュメとして出している中に、昭和29年、1954年からの、大竹市発足より現在までの議員定数の経緯とありましたけれども、その中の資料として1999年、定数21にしていますね、2003年に3減、2007年に2減しています。それは何で減らしたのか。大竹市、他の市町のメリット・デメリットも大切でしょうけど、大竹市の今までなぜ減らしたのか、減らしたときのメリット・デメリットも知りたいかなと。私も知りたいですし、市民の方も知りたい。そして2007年から議員定数16名、全然変わってないです。その理由も知りたい、先輩方の減らさなかった理由というのを知りたいかなと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

また一個。

議長。

○賀屋議長 すみません、今の藤川委員の質問に答えたいと思いますけど、地方自治法で平成23年まで、議員定数というのは国のほうが人口に応じて定めとったんですよ。それが一つの基準になって、当然人口が減ってくれば議員定数も減らしていかなければならないというので、各自治体が、各議会がそういう判断で、自治省の指導によって定数を枠の中に収めていたと。平成23年に地方自治法の改正があって、議員定数はいわゆる各議会で、自治体で必要な定数を定めなさいと、自由に定めていいですよという方針に変わって、これは地方自治の充実のために国が強制的に、強権的に指導するんじゃないし、自主的に地方自治体が運営してくださいという動きを得て、そういう方針に変わって、それ以降は人口が減っても必要な人数を確保するんだからということで、今までのような国の指導がないと。各議会のほうで決めてきたという、そういう経緯があります。

○網谷委員長 ありがとうございます。よろしいですかね。

日域委員。

○日域委員 今議長が説明されましたけど、あれは確かに嘘だとは言いませんけれども、国

の基準ってずいぶん高かったでしょ。だから国の基準を下回って、多くの自治体が定数を決めてきたことも事実ですよ。それが最終的に撤廃になったんですよ。

それで議会も、思い出せば切りがないですけども、例えば7年前、前々回の統一選挙のときに、大川村でしたか、高知県の。議会を廃止するって言いましたよね。あれは地方自治法に書いてあるわけですよ、ちゃんと町村議会かな、なくていいって。要するに昔のポリスですよ、ギリシャですよ。全体、みんなが集まってやるわけですよ。あれでいいって決まるとるんやけど、実際は600人も人口集まれんじやないかっていうのがあって、あれなんかは国が抑え込んで、やっぱり議会を維持してますよね。

いろんなことがあるんですけども、でもこれ、民主主義の原点ですからね。だから国がどうこう言うのは、それは今は言わないことになってて、それはそれでいいんですけども、やっぱりものを決めていく、決め方ですからね、議会ってというのは要するに市長が提案する政策の認印ですよ、我々は。議会が判を押さんと動けんわけですからね。そこを決めるのに、だから一般市民の人も関心を持ってほしいし、そここのところをやっぱり、大事なんよっていう啓発というか、そこからを含めてやらないと、わしら知るかいやって言われたらそれで終わるというのも変ですけど、やっぱり大事なことは大事なんやけんねって、それでわしは議員になりたいよってというのは言ってもいいんでしょうけれども、本当に表面的なことだけやってもこれは結論出ないと思うので、やっぱり皆さんに本当の説明をしながら、大竹市をよくするために関心を持ってくださいねって、その後でじゃあ議会のどうしましょうかって言わないと、さあ定数をどうする、こうするっていうだけでは、なかなか皆さんも気がつかない人も多いでしょうからね。ぜひそこを、啓発ですね、言葉とすればね。

でも、国の言うとおりにじゃなくてやってきたのは事実ですよ。多分大竹市がやってきたのも、ずっと国の基準は何人じゃけど大竹市は減らすっていう例外的な決め方としてやってきて、いよいよ最後にその国の基準が形骸化しているからやめようって言って、なくしたんだと思いますけどね。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

前に定数問題についてはいろいろな表現の仕方というのがありますかね。この北地委員の最初に示していただいた資料の中にも、かなり、平成10年からではございますが、詳しく書かれておりますが、平成19年じゃったんですかね。人口2,000人に1人と、大枠ではございますが、そういう数字も出とりますが、ただ人口1人当たり2,000人、僕ネットで見たら、同じ資料の横浜市も、これは政令都市ではございますが、4万何千人に1人ということなので、それで広島市は2万何千人に1人、隣の和木町は6,000人に10人ということで、全然1人当たりの数字が全然違うんですよ。

そういう意味で、国の方針としてそれが撤廃されて、上限も撤廃されて各自治体がいろんな理由を考えながら決めてくださいということだろうと思うんですがね。そういうことを言うと、ほかの市町の数字は参考にする必要はないんかというような議論にもなるかと思いますが、そういう意味じゃなしに、そこを突き詰めますとなかなか難しい問題が出

てくるんですよ。

そういうことを踏まえまして、一応、今日今までに決まったことは3点、小中委員の人口、面積、それから報酬、全部よく調べていただいておりますことと、それから小田上委員が言われましたように、SNSのYouTube、またそれぞれのアクセス、再生等の数字の資料とかいろいろ出ましたが、それと私と西村副委員長が提示しました、これは簡単なんですがね。大竹市発足から現在までの議員定数の推移ということで、以上3点ぐらいが今のところ決まったんですが、それでよろしいですかね。それから、読み原はもちろんですがね。

小田上委員。

○小田上委員 僕はそれでいいんじゃないかなと思うんですが、ただ議長がメリット・デメリット、つくったほうがいいんじゃないかというのを挙げられてましたし、藤川委員も恐らく、今までの数だけじゃなくて、なぜ減らしたのかっていう理由をつけたもの、解説が入ったものが欲しいという意味での発言だったんじゃないかなと思います。

なので、今口頭で議長が答えられましたけど、すみません、覚えてない部分もあるので、市民の方にこのときは何だったんだって聞かれて答えられるというか、それがもう聞かなくていいように、これはこういう理由で削減してますでもいいですし、それで資料があったほうがいいんじゃないかっていう、2つは賛成・反対もまだあまり聞いてない気がします。

○網谷委員長 長所・短所の意味ということですが、削減にしろ、現状維持にしろ。

どうぞ。

○小田上委員 なので、議長があつたほうがいいんじゃないかと言われた資料を作るかどうかと、藤川委員が言われた資料を作るかどうかは、僕は藤川委員のは追記すればいいと思います、委員長、副委員長案のやつに追記していけばいいかなと思います。

僕は純粋な意見が聞きたいなという思いと作業量が膨大になるんじゃないかなという心配で、メリット・デメリットってなかなかすぐには出しづらいんじゃないかなという意見を持っていますが、そういうほかの方の意見を聴いて、作るか作らないか、この2点がまだぶらんとっているかなと。

○網谷委員長 はてなマークじゃったですね、そういうのね。

議長。

○賀屋議長 削減したときのメリット・デメリットというのは、一般的に言われている部分はネットのほうにも上がっているんですよ。それは一般的な話であって、例えば減らすことによるデメリットは少数派の委員の意見を反映しづらくなるとか、それで弱者は少数になりやすい、そういった定数が減ることに対して多くの意見をもらえなくなりますよというところもちゃんと強調して、市民の方にこういうことになりますよということが一般的に言われてますよという資料を提示してあげたほうがいいんじゃないか。というのは、意見交換会でよし、意見を言うたろうと意見を持ってくる人というのは、かなりの方が、来ようかという人は削減せえやと、よそもみんなしよるんじゃないかと。人口減ってきてるし、無投票じゃったのに、おまえらせんのかという意見のほうが、私は多いんじゃないかと思

う。今心配しとるのはね。

その多いであろう意見の方に、減らしたときにはこういうこともありますよねと、いわゆるデメリット、そのことも考えてもらいたいですね、という、いわゆる資料の参考にしてもらうようなものも提示をして、それでも言う人は言うでしょう。でも、全くだ、そういうこともあるよなということ考え直すとか、そういう考え方もあるよねって少しは理解をしてくれる人もおられるかも分らんし、そういった意味でできるだけ一般的に言われているメリット・デメリットというのは、ネットのほうにもたくさんありますので、その中で本当にこの大竹市議会にマッチしてないものは除けばええと思うんですけども、一般的にマッチしているねということの部分については、それをメリット・デメリットとして表で上げて、一般的にはこういうふうに言われてますというような資料で提示をしたらいいんじゃないかなというふうに思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

それでは今議長が言われました、この。

藤川委員。

○藤川委員 先ほど私が質問した、今大竹市の、その国の、私は知りませんでした、大変失礼いたしました、地方自治法で決まったと。それも含めての説明が要るのかなと。

減らしたときの、やっぱり先輩方のメリット・デメリットあると思うんですよね。2011年から減らしてない理由も、やっぱりそうやるべきだと。その経緯で書いてますけど、どこまでが経緯で出していくのか。ただ数字だけでなくその内容も触れていただければなと思いました。理由。

○網谷委員長 ありがとうございます。

何年に削減したというその理由づけをね。そういう意味ですよ。

○藤川委員 減らさなかった、減らせなかったという理由、当時協議した内容を、資料が残っていると思うので。

○網谷委員長 局長、こういう資料がありますかいね。

局長。

○三上議会事務局 条例改正になりますので、提案理由で説明はされていると思います。

○網谷委員長 日域委員。

○日域委員 そういうのはないですよ。そりゃ言いますよ、理由は一応。それは実態とは全然違いますよね。

大体、今いつか原田委員がちよろっと口にされましたけれども、企業の議員がいなくなったじゃないですか。企業、社名はあえて言いませんけど、古くは4人ぐらいいた時代もありますし、2人になったり3人になったりしてましたけど、大体どっちかという、あっちのサイドから、要するに議会も市もちゃんとせえとかいう組合系の意見の中に、多いんじゃないかって、意外とあっちから、ああいう人たちからの意見として、減らしたほうがいいんじゃないかというのが、何か来てたような気はするんですけどね、雰囲気として。でもそんなものは記録にはないですから、そのときの有力な議員が、もうそろそろ減らさないけんのでという話になって、その下話はどこにも記録がないけど、もうそれを議会に

こういう場が上がってくるときには、もうある意味コンセンサスができとるわけですよ。

それで肅々と、大体引退する人がそういう委員会をつかって委員長をやって、それでそこでその人が、もう選挙ないですから、定数削減を決めて消えていくと、そういう過去だったと思いますけれども、だから今そういう意味じゃ、そういう企業系の議員の定数分だけです、彼らは出るわけですから、それがぽこっと抜けているのは、数的に言うたら大きいと思います。

それともう一個は、やっぱりあそこは、あの人たちの、ああいう議員の個人個人の意見じゃなくて後ろに母体がありますから、そういうところがやっぱりある意味、いい面も悪い面もあるでしょうけれども、ある意味ではそのウオッチャーというか、議会にチェックを入れていたわけですよ。今、その後そういう人いませんから、皆さんが自分がかわいいですからね、自分がかわいかったら定数減らすのどうかねって、おまえ要らんこと言うなよって、そういう雰囲気その後あったんだろうという気はします。

私の、今のは本音ですよ。以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小田上委員。

○小田上委員 資料を作るか作れないかと言ったら、作れると思うんですね。それはできると思います。ただ、さっき事務局のほうから、提案理由って言われて、正直議場で言われる提案理由とか、表面的過ぎてなんのこっちゃなんですよ。なので議事録読まないといけない。話したであろう議事録を読み返していくとか、何か報告してあるんだったらまとめているとか、その作業が本当にこの4月、5月辺りにできるのっていうプラス、もともと主な、純粋な意見のやり取りでいいのかなと思うので、僕は作るの難しいかな、なくてもいけるかなというふうに思っているというところです。すみません。作成はできると思いますよ。

○網谷委員長 協議するうちに、だんだん項目が増えてまいりますんですかね。それは仕方ないことなんです、一応メリット・デメリットは、一般論であっても出したほうがいいということで、よろしいですかね。

それから今藤川委員の言われた一つ一つの理由づけ、大体記録があれば一番見やすいんですが、これを掘り出してできれば一番いいんですが、一応挑戦するというところでお願いします。

副委員長。

○西村副委員長 それぞれの委員の皆さんから貴重な意見、熱意ある意見をいただきまして、ありがとうございます。

先ほど来から委員長が言ってますように、正副委員長でいろいろ決めました。前回の資料を頂いて、提出資料を上げるんですが、もう一度私の個人的な意見も含めて皆さんにお願いしたいのは、議会報告会は、この議会改革特別委員会だけを主体にやるわけじゃないんですよ。常任委員会が2つ、特別委員会が3つ。それで今回は、先般1月21日に開かれた正副班長会議の中でも、令和4年度の予算、当初予算のことと、それから議長がさっきからしきりに言われとる議会定数の在り方についてを話をしよう。

私は、昨年なかった、その前の年に経験したのは、B班として個人的なことを申し上げて恐縮なんですけど、もう集中砲火を浴びました。答えられませんでした。分かりますか、当事者じゃないんですよ。市民の言葉と議会の報告書は、ずれがあるから。これはたまたま先般なくなった大先輩の山本議員が一生懸命答弁していただきましたが、ああいう議会報告は、正直したくないです。

それよりもっと議会として定数減、先ほど小中委員が言われたように、よその市町も大事なんですけど、大竹市としてどうあるべきかというのを、今この議会改革特別委員会ですべてと協議をします。状況としたら、結論は出ていません。先ほどから言われる、委員長が正副委員長で話をして、そういうふうに取りまとめた資料につけ加えるということで注釈をつけて、皆さんに出して、それを報告事項にしてやれば、市民の人も分かってもらえると思いますよ。

それで、特に議員の定数云々言うて、先般16名の議員が、素直な気持ちでアンケートに答えとるじゃないですか。要するに定数削減をせえというのは、3名の方。現状維持の方、7名の方。あと、どうでもええという人が6名か、いた。私に言わせたらそうなんですよ、意思が出てないわけですから。分かりますか。こういうことが話し合えるようなことを議会報告ですべきと、私は思いますよ。どっちつかずというのは答えじゃないですよ。あえて委員長が言われた、匿名というか名前を書かなくて出そうという思いやり、配慮の中で皆さんの声を聞いたのに、どちらでもええじゃいう答えはないはずですよ。

それを特に皆さん、委員の方は肝に銘じていただいて、最後にお願ひがあるのは、どっちみち議会報告会はされます。されたときに、皆さんそれぞれのA、B、C班に入っている間、それぞれ出ていくわけですが、同じ答えができますか。議会改革特別委員会ではこういう問題を今日まで取り上げてやってまいりましたという答えが、皆さん同じでないといけないんですよ。

そういうことを含めたら、皆さんがそれぞれ熱意ある意見を言われた中を、これから委員長等を交えて、先ほど藤川委員が言われたような、あのときはこういう理由があったんじゃないというのを注釈で入れながら一つの報告書を作って、それを皆さんに読み上げてもらいたい。それで、それを答えるのは皆さんですから、誤解のないように。だからそれぞれの各班、各班でそれぞれの問題を抱えてやるわけですから、それで先ほど原田委員が言われたように1時間半の時間の中ですから、そう一つのものに集中的にはできないんですよ。それがやっぱり運営する側の、皆さんの答えだと。

だから前回は、返す返すも思うのは、山本議員がよう我慢して発言されたというのに頭が下がりましたよ。もう住民の方は、このチャンスに自分らの抱えているものをぶち上げりゃええという、そういう対応の方が、我々B班のときに来られた人が多かったというように感じます。これが二度と繰り返されないようにと思いますので、答えにはならないんですけど、私の意見としては、委員の皆さんそれぞれにお願いしたいと。

それで、よその市町もあります、歳入の問題もあります。だけどあくまでもお金で動く議員じゃないでしょ、皆さん。そういう意味では、もっともっと真剣に答えてもらいたい。報告会の中で。

それで、先ほどから言われる、先般中国新聞にも書かれましたが、9月をめどにこの議会改革特別委員会の結論を出して、ルールで言えば12月の議会に乗せて、要するに規約改正とかそういうものに乗せていきたいという、もう流れが決まっとうわけですから。それと、テーマとして議会報告会上げるものをどうするかというのを今日協議しよるんですから、今回だけじゃないし、また近々委員長が開催するかも分かりませんが、忌憚のない意見をいろいろ言ってもらって、今日聞いたことはまた委員長と取りまとめをさせていただきます。

以上であります。

○網谷委員長 ありがとうございます。

日域委員。

○日域委員 今の副委員長のおっしゃったことに別に反論するわけじゃないんですけども、前回のB班の件がありますよね。前回と今回同じですけども、この中でB班の方はどなたですかね。ああ、ずらっと。

それで、私は後から録音を聞きました。まあ、アブノーマルですよ、もちろんね。でも本音の話が始まったのは、じゃあ時間が来ましたのでこれで終わりにしますって言った直後に、待ってくれって言って、それから延長戦になったわけですよ。あれは日本人の会議の悪いところですけども、皆さん控えているわけですよ。だからああいうことは、もちろん今副委員長がおっしゃったみたいに、経験したくないっていうのは私もそうだと思いますが、でもあのおかげで、じゃあそういうのをどうするんやって、もう逆に今、西村副委員長が中心になって頑張ってる、今あるところまで行ってますよね。

じゃあ今まで気にしてなかったんかってなるわけですよ。そこまで含めて、ああいうことは二度とないようにしたいねっていうのはありますよね。ほかの人も、多分記録ありますから、聞いてみたら面白い。本当に、終わりますって言ってから女の人が手を挙げて、待てって言い出して、それから、山本議員も大変だったと思いますが、でもあれは山本議員が残してくれたレガシーですよ、一つのね。だから、ああいうことがないようにするためには、ほかの場面であの住民の話を吸収する場が要るっちゃうことですからね。そういうことで、よろしくお願いします。

○網谷委員長 ありがとうございます。

今の副委員長の言葉というのは、日域委員の言葉の中に、これはどういう課題の問題でもそういうことが起き得ることが、多大にあります。今回、私、今予想ではございますが、どのような意見が出るか想像つきません、これは。市民というよりか国民が持っておる意見と捉えるべきだろうと思いますので、それは副委員長が言われますように、あまりにもああいう場面は見たくないのは私もそうでございますが、一応腹の底では覚悟しとかにやいけん状態になるかも分かりませんが、なかなかこれを、ほんじゃが対処する方法がございませんので、皆さん、その辺のところをよろしくお願いします。その前にどなたがその市民の方の意見に対して答弁するかというのもあろうかと思いますが、その辺も含めて皆さん心に収めていただいたらと思います。

ということで、もう時間も来ましたので、一応今日決まったことを簡単に申しますと、

次回の委員会、3月4日になろうかと思いますが、それに向けて小中委員の資料の中の人口数、また面積、報酬、議員数の、これを一応活用させていただきますということと、それから前回、前期委員会の実行していますSNSまたYouTubeもまた、自由討議がまだ行われておりませんが、等々の検証、この資料の作成にどうするかということ。それから、これ議長だったか原田委員だったか、メリット・デメリット、定数に対して削減するか、または現状維持か、増があるかよく分かりませんが、それについての短所・長所の議論。それから藤川委員の、今までの削減した経緯のその中の理由づけ、それから私と副委員長が前回タブレットに載せさせていただきました、昨日載せさせていただいたんですが、大竹市の発足当時から現在までの議員数の経緯、以上の5点が資料づくりに決まっておるんですが、これでよろしいですかね。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、メリット・デメリットと経緯っていうのは、できるかできないかで、僕は反対だっという意見を言いましたし、ほかの方がいろんな経緯のお話はされましたけど、ほかの方がその資料をどうしたいのかっていう話も決まってないですし、もうそれでいいですかって言われたら、僕はよくないです。ほかの方の意見を聞いて、ほかの方が多数であれば仕方がないのでいいですけど、その趣旨の発言がないことによって作ることを認めるっていうんだったらよく分からないので、午後からもやったらいいんじゃないですか。

○網谷委員長 皆さん、今の小田上委員の意見に対して。

日域委員。

○日域委員 私は賛成ですよ。賛成というか、小田上委員の意見に賛成というか、さっき言いましたけど、本音の部分出てきませんからね、過去の経緯を調べてもですよ。だからそれは無理ですし、時代背景も違うし、今の状況としてはどうするかって、少なくとも昔は無投票はないですから、絶対にね。だから、環境が違うから調べてもあまり参考にならないでしょうし、労力考えたら、それはやめたほうがいいと思います。

○網谷委員長 日域委員、やめたほうがいいというのはどういう意味ですかね。

○日域委員 過去の経緯を議事録ひっくり返して読んでも、あまり参考にならないですよということです。事務局が大変だろうなって。

○網谷委員長 分かりやすく、今私が5つ、資料のテーマとして発言しましたよね、5つどうですかちゅうて、いいですかちゅうて。その中のどれが、これは資料の必要がないという項目はありますか。今、5つ私が提示したんですが。

○日域委員 私は小田上委員の意見を聞いてそれに賛成したんですけど、5つ明確にメモはしてないんですけども、過去の経緯を、過去減らしてきたことは確かですけども、それはそのときも私、一時期いましたけど、金魚のふんのように皆さんがそうって言やしようがないねって賛成しましたけど、私が肝心の議論の場に誘われたこともないし、一番にリードしてきたのが、人は分かりますけれども、一番肝心なところは、やっぱり然るべき人たちなんだと思いますが、それは表向きの、表というか残る記録としてはないだろうと思いますね。当たり障りのないことを議場では理由で言ってるはずですから、それは見て

もあまり、労多くして効果が少ないだろうと、そういうことです。ほかの点は、私よく分かりません。その点です。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 そのさっきの時間の制約もあるし、その資料をたくさん作っても消化不良になるおそれもあるので、だから他市との比較とかSNSのその効用の検証とか、だから例えばメリット・デメリットっていうのは住民の方がどのように、メリットからしたら無投票、減らしたからといって回避はできないけれども、少なくとも議会は努力したということは言えますので、そのメリット・デメリットというのは、どのように感じますかと住民の方に問いかけたらええんちゃいますかね。

たくさん資料作っても消化不良になったら意味ないですからね。だからできるだけ論点を絞るっていうのもありますし、要するに定数削減は、今こういうスケジュールでどういうふうになってやるんやっていうのを説明してどない思いますかと、その成り手不足について何かヒントはおまへんかと。そういうのはあまりたくさん、これもあれもやるって、時間限られてるんだから、資料はもう少なくてええんじゃないかと、私は思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

局長、昼からは各派代表者会議。その後何か予定がありますかね。

〔「多分もう行けそうな感じが、僕は感覚としてしますけれども。あともうやったら。」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 行けます。

〔「行けると思います。」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 藤川委員。

○藤川委員 すみません、私は資料を用意してほしいという仲間なので、言わせていただくと、がつつり資料じゃなくていいんですよ。ほんの箇条書き程度でいいんです。そのときの議員さんがどういう理由で減らしたのか、なぜ現状維持にしたのか、知りたいかなど。本当にそんなに膨大な資料じゃなくてもいいと思います。議事録を読んでもいいし、もし資料があるんなら、その、もうコピー、ペーストでいいと思います。本当に簡単な資料でいいと思うんですよ。そんなに重い意味で言うたつもりではありません。

○網谷委員長 原田委員。

○原田委員 私は今のメリット・デメリットと、それから過去の減らした経緯とかいうのを資料としてっていうのは、小田上委員や日域委員や小中委員と一緒に、反対でして、この中で議論しているわけですから、その議論の内容として経緯の中に載せていけばいいことであって、そこまで資料とかいう大げさなものを作らなくても、この議会改革特別委員会の中で議論しているわけですから、その経緯の中でこういう議論もありましたと、こういう話があってこういう回答があったりとか、意見が出たりとか、それをかいつまんで必要のところだけを、大事のところだけを抜き出していけばいいと思いますし、メリット・デメリットもこれからまた議論があるかも分からないので、そこを抽出して資料とかいうか経緯の中に載せていけばいいんじゃないかなと思いますので、資料を作る必要はないんじゃないかなと、私は思います。

以上です。

○**網谷委員長** これは最初に言ったと思いますが、説明文ですよ、挨拶文になるんですか読み上げになるんですが、これにはほとんど、私自身の考えでは触れようと思っております。令和元年から現在までの経緯、その今の、仮に削減にしろ現状維持にしろ、これに文章の中に入れてもええし、それに簡単な資料を、今皆さんからいただいた資料を簡単に、それを提示して、全体の中の意見を市民の皆さんから聴くというふうにしていったらと、僕はそういうふう想定してるんですがね。

さっき日域議員が言われたように、これと、じゃあ打ち切りますみたいな言い方、それから手を挙げてまた長く続いてということもありますので、想定できませんので。今先ほども言いましたように、一つ一つの資料を提示して意見を求めることはかなり時間の関係でも難しいんじゃないかということで、小中委員がちょろつと言われましたように、そんなに作っても仕方ないんでというような意見もありましたが、その辺の集約、資料の中の集約をして提示していけばいいんじゃないかと思うように、僕は簡単に考えとるんですがね。そのようなことで、一応提示としては、先ほど申しましたような、今日皆さんから5つほど提示されたので、それをもう一回協議したいなというふうに私は言ったつもりなんです、どうでしょうかね。もう同じようなことになるんですかね。分かりません。

小田上委員。

○**小田上委員** すみません、メリット・デメリットと、藤川委員は委員会言われた経緯、藤川委員は簡素化していただいたらいいという意見があったので、それもありかなと思ったんですが、委員長が言われる、何か読み原の中にはそういうものがあって説明もされるというところは、だろうなと思いました。

結局その経緯をつくるのか、メリット・デメリットをつくるのかは、どうなんですか。

○**網谷委員長** ありがとうございます。

もちろんつくろうとは思いますがよ。それに対してね。

小田上委員。

○**小田上委員** 作るっていう判断を僕はした覚えが、認識があった覚えはないので、すみません、しかも今、作らなくていいんじゃないという声が多いような気がするので、それで作ると言われると、びっくりしちゃいます。

○**網谷委員長** どうぞ。

○**藤川委員** すみません、先ほど副委員長、西村委員がおっしゃったとおり、その経緯の中に入れ込むという御意見、私、それでいいんです。本当にわざわざ私が言うその経緯の中に、減らした理由について、減らしてなかった理由についてという資料を用意してほしいというわけじゃないんです。ただ本当に簡単でいいので一文入れていただけたらなという思いで発言させてもらってますので、それをわざわざ、その資料を一部作らないといけないという意味で、私は発言しているわけではありません。

○**網谷委員長** 分かりました。今の読み原ですか、その中に含めるつもりで、私はおります。ただ一枚一枚、5つほど提示しなければいけないのかなというふうな感覚で、皆さんに問いかけたのはそこなんですよ。どうなんですかね。

○日域委員 いや、例えばメリット・デメリットって言っても、端的に言えば山と島の議員、いませんよね、今。そういうことですよ。それでもいいか悪いかは別問題ですよ。けど、そういうことですよ。長々としゃべることはなくて、それ減らしたら減らしたなりに影響は出てますよ、見たらすぐに分かりますよ、まとめるまでもなくね。

○網谷委員長 私の認識が悪いのか、結局メリット・デメリット、それから藤川委員が言われた理由づけ、これは別に出してもよろしいということなんですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 そうですか。それじゃあ今の。

〔「なしで」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 ということは3つということによろしいですか。

〔「はい。省力化で行きましょう、省力化。」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 そういうことで、じゃあ最初のほうで言った3つをテーマとして、次回の委員会で、3月4日にその受け持つ人選もあろうかと思しますので、そういう協議をさせていただきます。

今日は。

〔発言する者あり〕

○網谷委員長 そういうことです、3月4日ね。定例会の中の基地周辺特別委員会の後になりますかね。それで、もしいろんな意見が交差しまして時間がかかるようでしたら、昼から何かありますか、局長。

〔「4日。入ってないです。」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 ないということですので、仮に議論が伯仲しましたら、昼からに持ち越すかも分かりませんので、心構えのほどよろしくお願いします。

では特別委員会はこれで閉会といたします。ありがとうございました。

12時12分 閉会